

公衆衛生 若手医師・医学生サマーセミナー
PHSS 2021

DHEAT
～災害時における公衆衛生医師の役割～

2021/08/22

長崎県県央保健所

藤田 利枝

災害時における行政の役割

- 被災状況等に関する情報収集・情報発信
- 災害対処に関する方針決定
(災害対策本部の設置・運営)
- 被災施設等の復旧、被災者の支援
- 支援活動を実施する機関・団体等の活動環境整備
- 多様な主体との協力体制の構築

地方自治体は災害時に「住民の生命、身体及び財産を災害から保護する」責務がある。

災害時における保健医療行政の役割

- 住民の生命・安全な暮らしの確保を図り、避難生活に伴う二次的な健康被害を予防しながら、被災地域全体の早期復興へ向けた支援を行う
- 医療ニーズの高い方（人工呼吸器使用患者や人工透析患者など）、地域防災計画に定めた「避難行動要支援者」を最優先として対応。
- 特に多数の避難者の発生や医療機関の閉鎖などが生じる大規模災害の場合には、より広い対象である「要配慮者」が初期における支援対象となる。

- 慢性疾患で継続した投薬が必要な方、介護が必要な方、妊娠後期の妊婦、避難生活に対応しきれない精神疾患の方など、フェーズごとに変化する対象者の状況に優先順位をつけながら対応。
- 災害時には経時的にそのニーズが変わってくるため、発災直後から復興期まで長期間にわたる活動が必要。さらに、発災後だけでなく平時からの準備を進めることも重要。

災害時保健医療対策3本柱 ⇒ 防ぎえた死と二次健康被害の最小化

(対策1-①) 医療救護(救急)体制の構築
 災害救助法4条4項:医療及び助産

負傷



地震
津波

災害時要配慮者

こども
高齢者
障害者
在宅療養者
妊産婦

(対策2) 保健予防活動

(対策3-①) 生活環境衛生対策

避難生活における集団としての生活環境上の健康リスクのモニタリング評価(診断)

生活環境上の健康リスク

持病・障害の悪化
新たな健康問題の発生

健康影響

心と体の健康リスク要因

生活環境

食料確保と栄養管理
食品衛生(食中毒予防)
飲料水等の確保と衛生
し尿・廃棄物の処理
住宅(居住)衛生
ノン・フードアイテム
動物愛護、そ族昆虫等

保健行動

手洗い・マスク、生活不活発等、集団生活における保健行動上の健康リスク

持病や障害の悪化

(対策1-②)

・医療救護等サービス体制構築
(災害救助法4条4項:医療及び助産)
・医療等サービス体制の復旧

×
アクセス
障害

医療等資源の被災
・医療等サービス
・医療等システム

災害対策本部対応

リスク要因の増加

(対策3-②)

生活環境上の健康リスク軽減
(ライフライン復旧、支援物資等)

住宅、ライフライン、物流、情報通信等の社会インフラの被災

**災害時の
保健医療対策
3本柱**

平時の保健所業務

地域保健法 第6条

保健所は、次に掲げる事項につき、企画、調整、指導及びこれらに必要な事業を行う

- 5 医事及び薬事
- 7 公共医療事業の向上及び増進
- 8 母性及び乳幼児並びに老人の保健
- 9 歯科保健
- 10 精神保健
- 11 治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病により長期に療養を必要とする者の保健
- 12 エイズ、結核、性病、伝染病その他の疾病の予防
- 14 その他地域住民の健康の保持及び増進
- 3 栄養の改善及び食品衛生
- 4 住宅、水道、下水道、廃棄物の処理、清掃その他の環境の衛生
- 13 衛生上の試験及び検査
- 1 地域保健に関する思想の普及及び向上
- 6 保健師
- 2 人口動態統計その他地域保健に係る統計

(対策1)

医療

医療救護体制

医療救護体制

- ・母子、老人、歯科
- ・精神、難病
- ・感染症

(対策2)

対人保健

保健予防活動

- ・母子、老人、歯科
- ・精神、難病
- ・感染症
- ・栄養

(対策3)

対物保健

生活環境衛生

- ・栄養、食品衛生
- ・上下水道
- ・生活衛生
- ・住宅、廃棄物、清掃

他の行政

ライフライン・物流等の
社会インフラの復旧

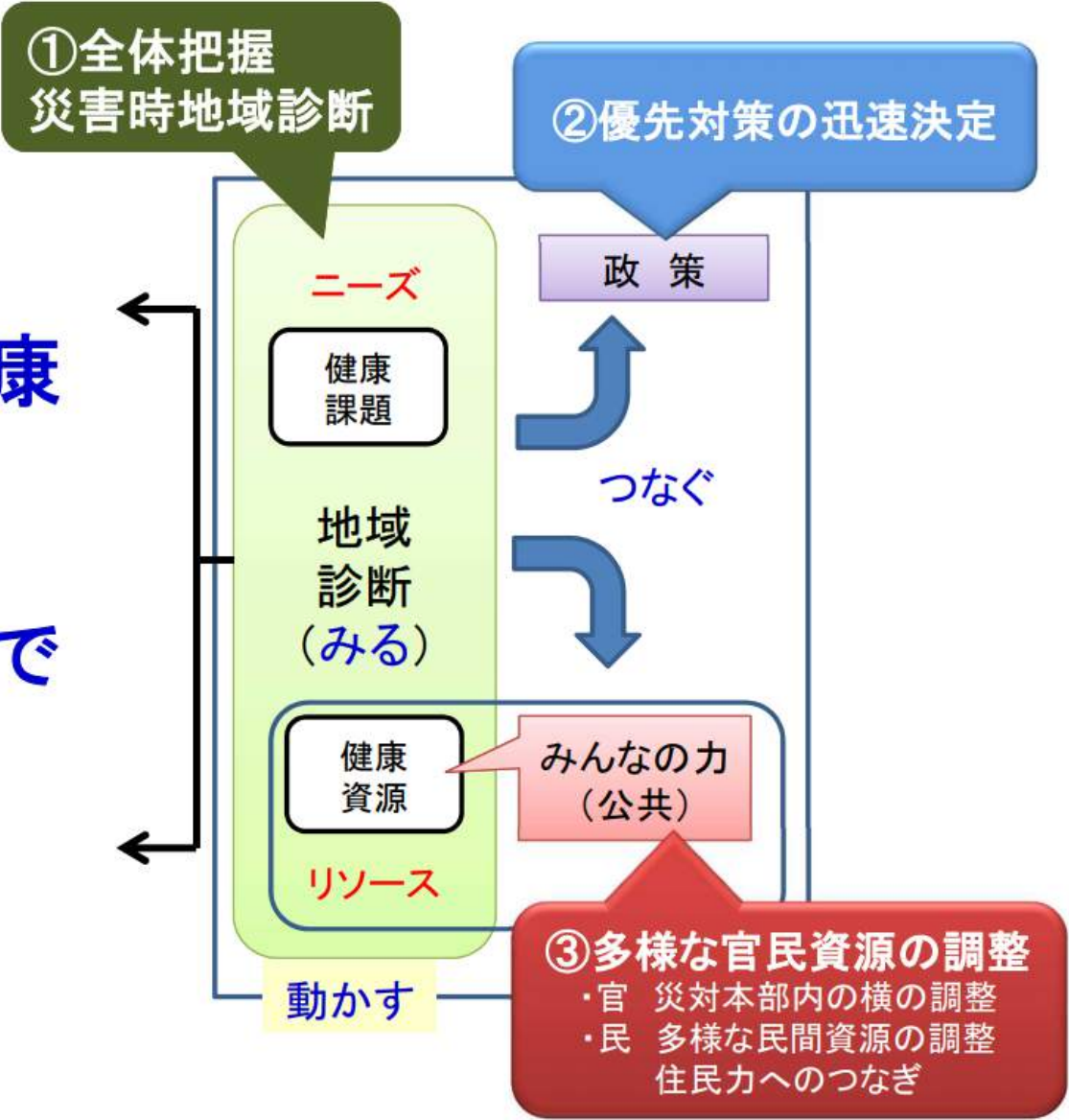
平時の地域診断(災害に備える事前診断)

平時に必要なことは、
すべて災害時にも必要！

災害時も平時も公衆衛生の基本は同じ

公衆衛生とは、
みんな(公衆)の健康
を
みんな(公共)の力で
自助・互助、共助、公助
守る(衛る)こと

3つの「衛生」
生命 を衛る
生活(暮らし)を衛る
生きる権利 を衛る



DHEAT

災害時健康危機管理支援チーム

D i s a s t e r
H e a l t h
E m e r g e n c y
A s s i s t a n c e
T e a m



DHEATとは

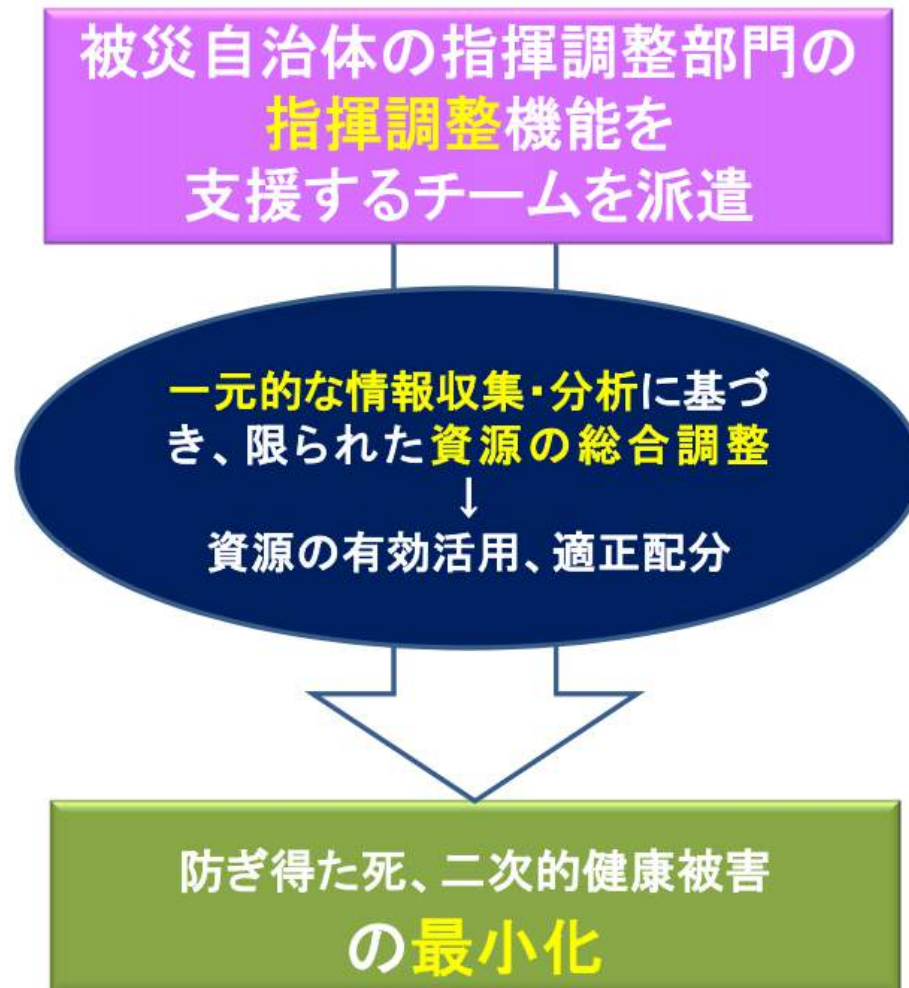
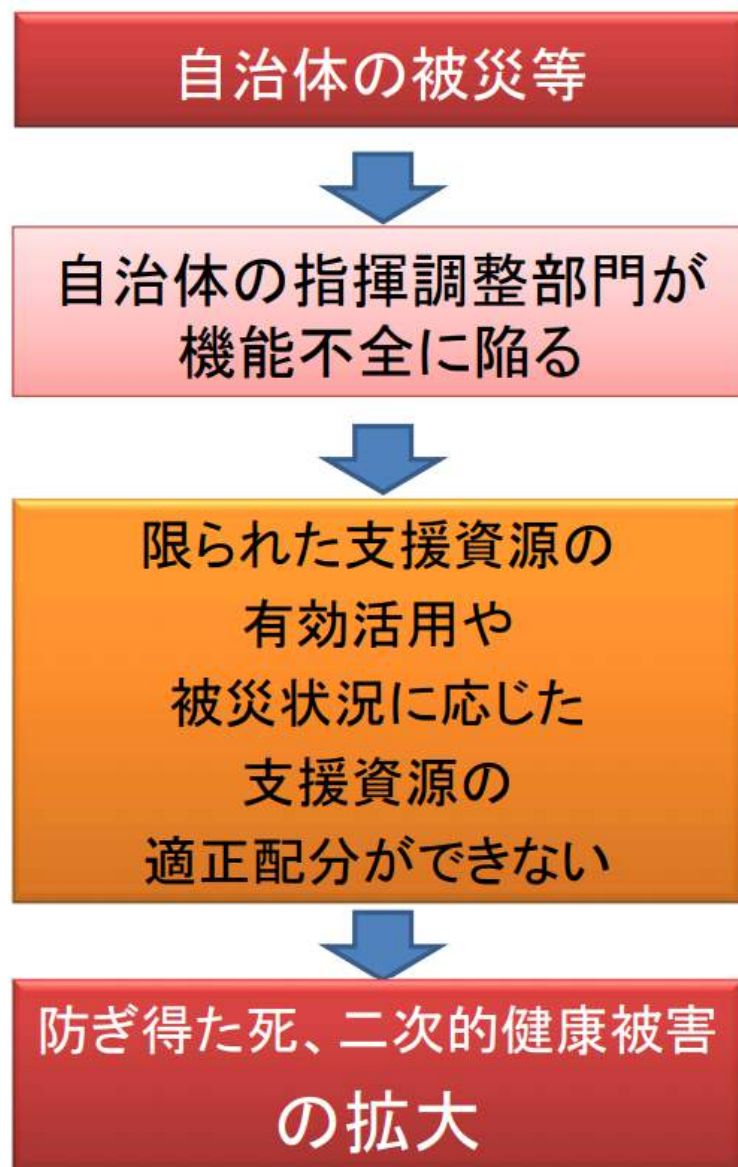
○**大規模災害**発生時に、都道府県・指定都市等に設置される保健医療調整本部や保健所等での**指揮調整機能**が円滑に進むよう支援を行う**専門的な応援派遣チーム**。

任務：被災自治体の保健衛生行政のマネジメント業務支援

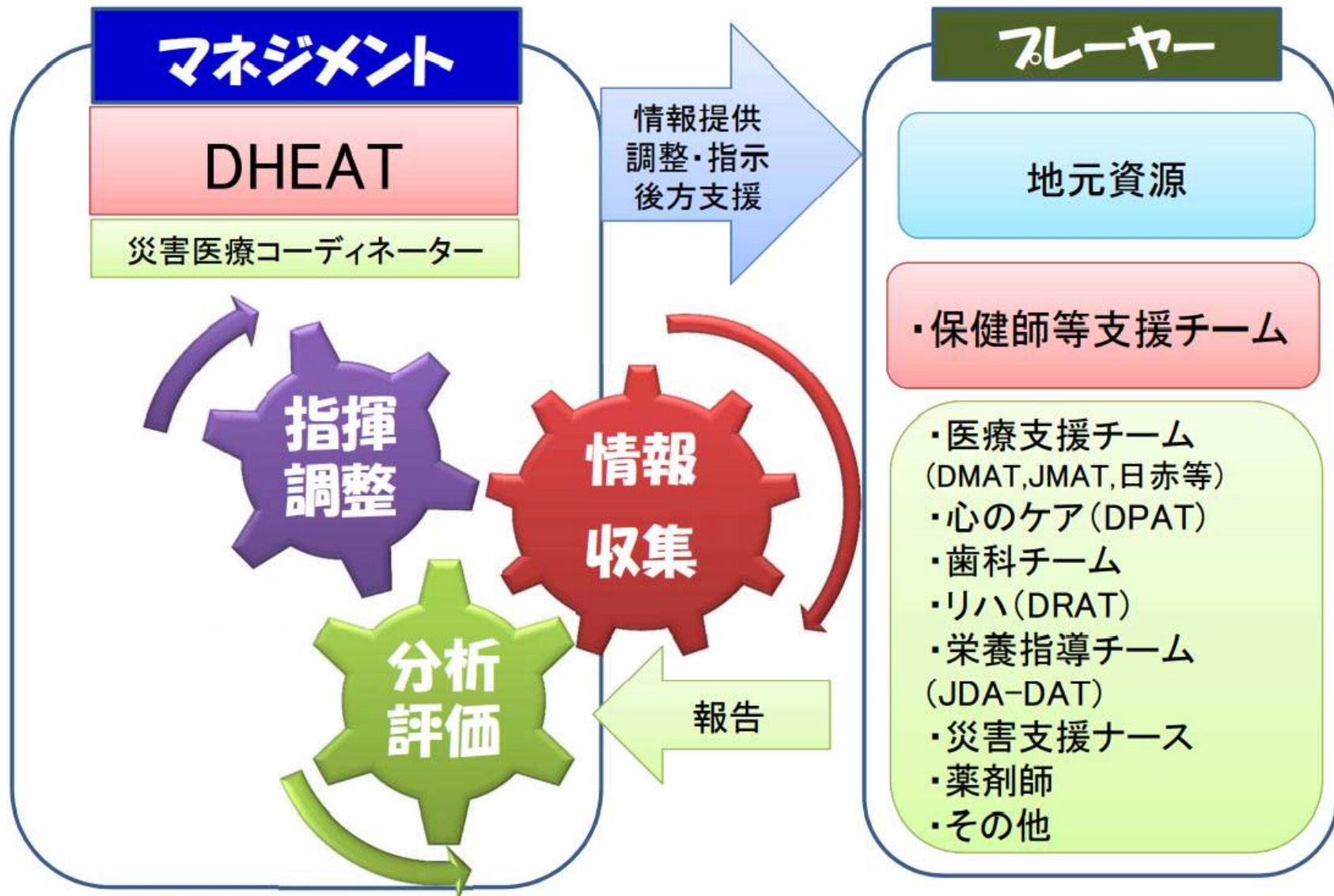
活動場所：保健医療調整本部・保健所・市町村など

構成員：保健・医療等の専門職・業務調整員 5名程度

災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)の活動理念



情報収集、分析評価、連絡調整等の マネジメント業務を支援



DHEATの応援派遣実績について

【平成30年7月豪雨におけるDHEAT派遣について】

岡山県・広島県・愛媛県より、健康危機管理対応をしていくためには他自治体からの応援が必要であると判断したため、応援・派遣調整の依頼があったもの。厚生労働省において調整を行い、16の自治体から御協力をいただいた(7チーム)。

派遣先	活動場所	チーム数	派遣期間	派遣元
岡山県	倉敷市、総社市、高梁市、井原市、矢掛町	2	①7月12日～8月6日 ②7月28日～8月14日	①長崎県、熊本県(※1)【8/6活動終了】 ②和歌山県、大阪府(※2)【8/14活動終了】
広島県	呉市、東広島市、三原市、海田町、坂町、熊野町	4	①7月17日～8月1日 ②7月17日～8月31日 ③7月17日～8月11日 ④7月17日～8月12日	①東京都【8/1活動終了】 ②札幌市、北海道(※3)、三重県、北九州市(※6)【8/31活動終了】 ③愛知県、大分県、熊本市、青森県(※4)【8/11活動終了】 ④千葉県、大阪市(※5)【8/12活動終了】
愛媛県	宇和島市	1	7月22日～27日	徳島県【7/27活動終了】

- (※1)長崎県、熊本県の2自治体が交代で派遣期間中1チームを構成。派遣期間は当初8月17日までであったが、8月6日に変更。
 (※2)和歌山県、大阪府の2自治体が交代で派遣期間中1チームを構成。
 (※3、6)札幌市、北海道、三重県、北九州市の4自治体が交代で派遣期間中1チームを構成。
 (※4)愛知県、大分県、熊本市、青森県の4自治体が交代で派遣期間中1チームを構成。
 (※5)千葉県、大阪市の2自治体が交代で派遣期間中1チームを構成。

【令和元年8月の前線に伴う大雨に係るにおけるDHEAT派遣について】

佐賀県よりDHEATの応援派遣について調整の依頼があり、保健医療調整本部及び保健所の指揮調整機能を応援するため、以下のとおり厚生労働省において調整を行い、3の自治体から御協力をいただいた(2チーム)。

派遣先	活動場所	チーム数	派遣期間	派遣元
佐賀県	① 佐賀県庁保健医療調整本部 ② 杵藤保健福祉事務所	2	① 8月31日～9月11日 ② 8月31日～9月11日	① 熊本県 ② 大分県、長崎(※1)

- (※1)大分県、長崎県の2自治体が派遣期間中1チームを構成。

令和2年（2020年）7月豪雨対応

派遣先	チーム数	派遣期間	派遣元
人吉保健所	2	①7/8～7/21 ②7/8～7/24	①長崎県 ②佐賀県・熊本市・島根県 *佐賀県、熊本市、島根県が交代で1チームを構成
八代保健所	1	7/13～7/19	佐賀県
水俣保健所	1	7/10～7/20	三重県・宮崎県 *三重県と宮崎県が交代で1チームを構成

DHEAT活動の実際

これまでに経験した災害派遣

- 平成30年7月豪雨 : 岡山県備中保健所
- 令和元年8月九州北部豪雨 : 佐賀県杵藤保健所
- 令和2年7月豪雨 : 熊本県人吉保健所

地域の特性、災害の特性によって異なるニーズ

地域の特性、災害の特性があっても同じニーズ

リーダーとしての役割

○先頭に立って取り組み、組織の士気・能力を引き出す

(通常から職場の雰囲気づくりを大事に！)

○情報不足の中でも、事態の本質を見抜く

○迅速かつ的確な対応を決定、実行する

○目先のことだけでなく、今後の展開を予測する

○関係者との適切な分担協力体制を築く

○関係者と緊密な連携・調整を行う

・被害の
最小化
・迅速な
回復

(地元の事は自分が一番よく知っていると言えるように！)

DHEATとしての役割

- 派遣先の状況を素早く把握し、優先順位をつけ対応
- 受援者と他の支援チームとの体制づくり
- 受援側への上手な問題提起

- チームの任務の明確化およびチーム内での共有
- チーム内での役割分担と的確な指示

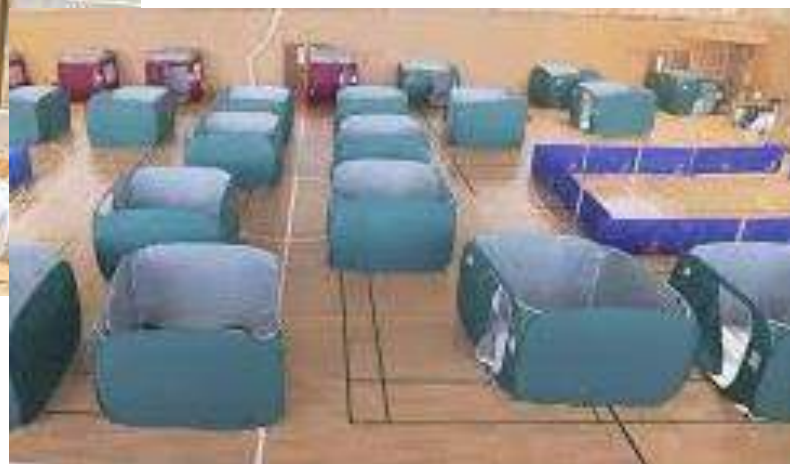
DHEAT派遣を経て

- 災害時のための訓練も必要であるが、日常の業務の中でも意識して対応することで対応力は身に着けられる
- ニーズの変化や多様性に柔軟かつ機敏に対応するために、想像力を豊かに
- コミュニケーションスキルは必須かつ重要
- 協力者を上手に使うことを意識する
(多様な団体の事を知り、把握しておく)

避難所における変化



避難所にも求められる
快適性



次の災害に向けて

- 一人でも多くのDHEAT育成
- 受援の準備
- 必要な能力の獲得・ブラッシュアップ
- 市町村との顔の見える関係づくり

- 被災時に職員が勤務できる環境づくり
通勤、休養、介護、保育園...